

新居浜地域スマートシティ推進事業実行計画（愛媛県新居浜市）

本市の総合戦略においては「住みたい、住み続けたい あかがねのまち」を目指しており、この都市像を実現するために、人口の減少や高齢人口の増加、商業活動の鈍化、公共交通機関の利用低迷、水害、土砂災害への対策や子供・高齢者の安全な環境整備を重要な課題と捉え、データ利活用型スマートシティを推進する。

目標

- ① 共通プラットフォームのデータ利活用指標：目標年度 2025年：データを利活用したアプリケーション数 5件
- ② 住みたい、住み続けたいと考える住民の割合（住民満足度の向上）
目標年度 2025年：「満足・やや満足」を 57.7% → 80%
- ③ 移住したいと考える市外の人との割合（市の魅力度の向上）
目標年度 2025年：総合順位を 136位 → 100位以内

取組概要

持続可能な地方都市運営の実現を目指すため、本市が抱える交通、防災、人口減少、高齢化の4つの課題を重点課題とし、解決に向けた生活インフラの最適化により、市民生活の改革が期待できる「スマートモビリティ」「スマート防災」「働き方サポート」「ヘルスケア」サービスを創出する。

課題・分析

- 交通の最適化**
 - 公共交通機関の利用停滞
 - 渋滞緩和
 - 環境への配慮
- 災害対策**
 - 土砂災害警戒区域のモニタリング
 - 災害時の対応
- 人口減少対策**
 - 子育て支援及び充実
 - 空き家対策
- 高齢化・長寿化**
 - キャリアデザインの見直し
 - 健康寿命の延伸

取組み（サービス導入）

- スマートモビリティ**
 - モビリティ体系の構築
 - 交通インフラの最適化
- スマート防災**
 - 災害発生シミュレーション
 - 危険地域予測判定
- 働き方サポートサービス**
 - 女性活用
 - 空き家活用→移住・定住
- ヘルスケアサービス**
 - 検診、日常データの蓄積
 - 予防医学的見地
- 共通プラットフォーム**
 - データ蓄積
 - データ活用
 - オープンAPI

住みたい住み続けたいまちの実現へ

新規事業の創出

- データ利活用
- セミナー
- アイデアソン、ハッカソン

将来像

取り組みの全体像

データを活用した街の最適化

- スマート防災**：AIを活用した災害発生予測
- モビリティ**：交通インフラの最適化、地域ポイント・ヘルスケア連携
- 地域ポイントサービス**：各サービスとの連携
- 見守り**：センサー・GPSを利用した見守りサービス
- 働き方サポート**：移住・定住・女性活用、空き家データ管理、仕事マッチングアプリ
- データセンター**：共通プラットフォーム
- ヘルスケア**：健康寿命の延伸、地域ポイント・モビリティ連携

スマートシティにいほま

体制

新居浜地域スマートシティ推進協議会

幹事会

- 官
 - 新居浜市（プロジェクト総括）
- 学
 - 愛媛大学
 - 新居浜工業高等専門学校（データ分析、知見の収集）
- 民
 - 株式会社ハートネットワーク（プロジェクト管理等）
 - プラットフォームWG（データ収集、API連携）
 - 防災WG（災害データ収集）
 - 福祉WG（見守り・健康システム）
 - 交通WG（Maas）
 - 地域経済WG（地域ポイントシステム連携）

スケジュール

2019～2020年度	2021～2022年度	2023～2024年度
<ul style="list-style-type: none"> 共通プラットフォームの実装 地域ポイントサービスの実装 災害データの取得 	<ul style="list-style-type: none"> 各種データの取得・分析 課題の整理 実装に向けたサービスの検討 	<ul style="list-style-type: none"> 各サービスの実装 スマート防災 災害発生予測サービスの提供 スマートモビリティ 交通インフラの最適化 ヘルスケアサービスの提供 働き方サポートサービスの提供 上記サービスと地域ポイントサービスとの連携